

共に創り、共に歩む

Leaps to the Future

Leap to the Future

あした 未 来 を 創 造 す る 、 医 療 の 現 場 か ら

私たち
は医療機関が地域の
あした
「未来」をまもるためカイゼンを超えた
「Leap(=飛躍)」を支援します。

経営にかかる膨大なデータを徹底的に分析し(実証性)、
医療政策の先をよみ(先見性)、
現場の医療スタッフと共に汗を流し(専門性)、
医療現場から病院を、地域を、そして日本を変えていくお手伝いをします。



私たち
は、医師、看護師、薬剤師などで構成される
医療の現場を知るコンサルタントとして、医療現場の
当事者意識でカイゼンと向き合う「実行支援型の
サービス」を提供します。

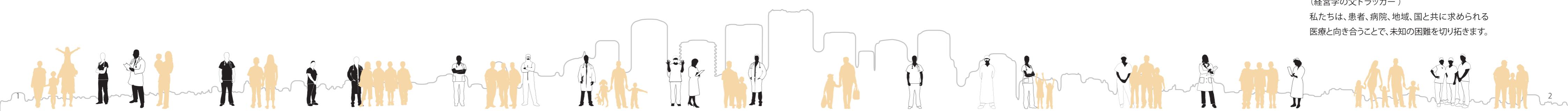


私たちは、ベンチマークを起点とした「実証分析」
で課題の本質を見つけ可視化します。病院は
ベンチマークによる自院の「立ち位置」から、
るべき姿へとカイゼンを進めることができます。



「変化はコントロールできない。できることは、
その先頭に立つことだけである」
(経営学の父ドラッカー)

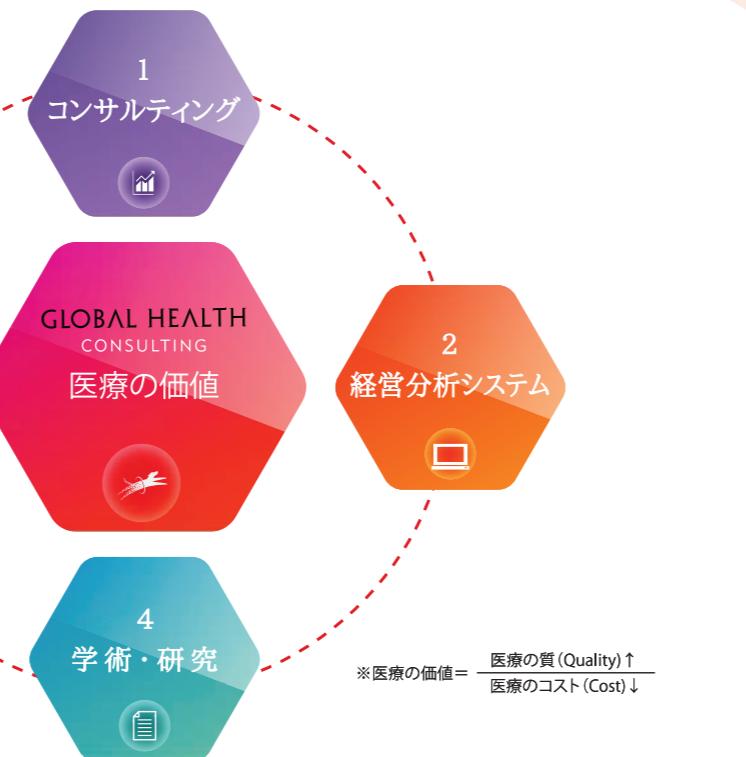
私たちは、患者、病院、地域、国と共に求められる
医療と向き合うことで、未知の困難を切り拓きます。





急性期病院の 「医療の価値」を向上させる 4つの事業

- ① 医療ビッグデータを駆使し、医療の現場を熟知したコンサルタントによる実行支援型のコンサルティング
 - ② コンサルティングノウハウを凝縮させた経営分析システム
 - ③ 政策と病院経営に特化したメディア・セミナー
 - ④ 国内外の最新情報に基づく学術研究
- 実証性、専門性、先見性に基づく4つの主力事業で、急性期病院の「医療の価値」を向上させます



10年間でクライアント数は
約10倍に増加



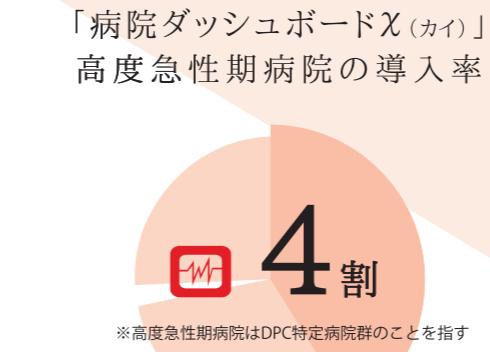
主に地域の基幹病院を
サポートしています



Leap(飛躍)する実行支援型
コンサルティング



基幹病院の支援を
経営分析システムでも



精度の高い分析を実現する
膨大なベンチマーク数



病院経営のプロが
認めるメディア



進化し続けるベンチマーク分析



GHCは、米国流の病院経営改善の実践的な手法である「ベンチマーク」を日本に初めて導入しました。めまぐるしく変わる医療環境の未来をみすえ、病院の経営に資する革新的なサービスの開発と提供に努め進化し続けます。
コンサルティングサービスでは、経営課題に応じた最適なサービスを提供します。

地域医療構想下のビジョン・戦略の策定

課題

- ✓ 病床機能戦略（病床機能分化）
- ✓ 病院統合再編
- ✓ 病院の働き方改革
- ✓ 新公立病院改革プラン策定支援

急性期機能向上

課題

- ✓ DPC 特定病院群（基礎係数対策）
- ✓ 医療・看護必要度の重症度割合適正化

増収対策

課題

- ✓ 戰略的集患（DPC 病院の地域連携）
- ✓ チーム医療向上（加算対策）
- ✓ 手術室効率化

患者フロー最適化による医療の質向上と業務効率化

課題

- ✓ クリニカルパス作成・見直し
- ✓ PFM（入院サポートセンター開設支援など）
- ✓ 適正な病床機能の運営（ベッドコントロール）

コスト削減

課題

- ✓ 医療材料コスト削減
- ✓ 委託コスト削減

人材の育成・組織強化

課題

- ✓ 病院のマネジメント人材の育成支援（経営分析トレーニング）
- ✓ 病院経営の戦略組織構築（経営戦略室の立ち上げ）

共に Leap(飛躍)してきた クライアント病院

多様な病院のニーズに合った
経営改善を実現
継続年数の長さは、満足と信頼の証
コンサルティング初年度から
改善効果を実感

社会医療法人財団 慈泉会 相澤病院

長野県松本市
病床数 460 床
継続年数 20 年

リハビリ・病床機能に関する研究支援

ポイントと効果

- 手術室運用改善で手術件数が 800 件増加
- 早期リハビリが患者の「医療の質」に与える影響を分析
- 病床機能に関する共同研究が地域医療構想で採用

社会福祉法人恩賜財団済生会支部 福岡総合病院

福岡県福岡市
病床数 380 床
継続年数 13 年

手術室改善・地域連携

ポイントと効果

- データ分析で手術室の稼働率 80%
- 地域連携の強化で紹介率 81.5%
- 救命救急隊と関係再構築、対応病床 62 床

足利赤十字病院
栃木県足利市 / 病床数 540 床

地域連携・分析訓練

ポイントと効果

- 診療科別バス改善（医療資源投入金額など）
- 「病院職員自ら」がデータを活用した分析体制の構築
- 医療連携状況の可視化および連携体制の構築

三豊総合病院
香川県観音寺市 / 病床数 462 床

機能分化

ポイントと効果

- 地域医療を見据えた病院の 5 年マスター プランを作成
- 地域包括ケア病棟の疾患別病床管理方法を提案
- 機能分化の促進に成功

愛媛県立中央病院
愛媛県松山市 / 病床数 827 床

機能分化

ポイントと効果

- 県立中央病院としてるべき病床数をシミュレーション
- 将来の医療需要を基に成長分野と削減分野を予測
- 基礎係数分析から在院日数を短縮できる疾患を特定

東京医科大学病院
東京都新宿区 / 病床数 904 床

診療科別ヒアリング

ポイントと効果

- 4 診療科で 1 年間に換算して 7900 万円分の增收
- DPC の仕組みを大学病院内へ周知
- 各診療科の医師のデータを見る目が激変

※継続があった年の継続年数になります。相澤病院は、グローバルヘルスコンサルティング米国からのクライアントになります。



データとITは医療改革を支える両輪



2
経営分析システム

高度急性期病院のための
～4割が導入する経営支援サービス～



病院ダッシュボードX

<https://www.ghc-j.com/dashboard/>

病院経営の課題に無限のXをもたらす「病院ダッシュボードX(カイ)」は、病院経営の専門コンサルティング会社が開発した、経営改善のポイントが瞬時に分かる、多機能型経営分析サービスです。DPC、地域連携、マーケット、レセプト、手術台帳、財務、重症度、医療・看護必要度といった多様なデータと大量のベンチマークデータをもとに、経営状況を可視化し、経営課題の解決まで、ご支援いたします。

充実の分析機能

- ・コンサルティングノウハウを凝縮
- ・院内情報の可視化
- ・独自のベンチマーク分析

使いこなせる環境

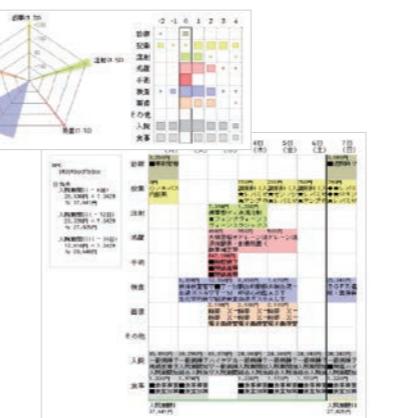
- ・充実したサポート体制
- ・お客様満足を追求
- ・コンサルタントと連携した支援
- ・経営課題解決型ユーザ会を開催



※「病床機能」は、地域包括ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟向けの分析サービスとER、ICU、HCU向けの分析サービスを提供しています。

DPC分析
ベンチマークシステム

EVE

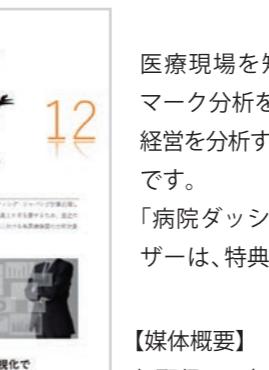


日本初のベンチマークシステムの思想を受け継ぎ、DPC対象病院の約半数が導入するDPC分析ベンチマークシステム。
さまざまな切り口で重要な経営指標を把握できます。
※EVEはMDV社との共同開発商品

<https://www.ghc-j.com/it/>

LEAP JOURNAL

経営と医療の質を見える化する
月刊レポート



医療現場を知るコンサルタントが、ベンチマーク分析を活用し、あらゆる角度から病院経営を分析するWEB閲覧できる月刊レポートです。
「病院ダッシュボードX」および「EVE」ユーザーは、特典として無料で購読いただけます。

【媒体概要】

▶配信日：毎月 10 日

<https://leapjournal.ghc-j.com/>

出来高病院向け日本病院会
戦略情報システム

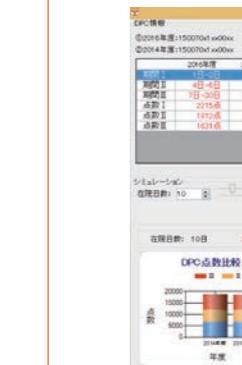
JHAstis

Japan Hospital Association



<http://www.hospital.or.jp/jhastis/>

無料DPC検索ソフト
ぽんすけ



DPC/PDPS の新・旧制度を比較することができる分析ツール（無償で誰でもご利用いただけます）。
非ネット環境でも利用でき、面倒な診療報酬の計算がポンポンできます。

<https://www.ghc-j.com/it/ponsuke/>

変化の先頭に立て



病院経営の変化の先頭に立つために必要な情報を、
GHCは独自のメディアや各種セミナーを通じてご提供します。

Gem Med



病院経営に携わるすべての人たちに向けて、どこよりも早く、正確で、専門的なニュースをお届けする、医療系ニュースサイトとメールマガジン。

【2020年度診療報酬改定会】400床以上病院の地ヶ病、「急性期病種からの転換」5割以上で、入院料1割減削のペナルティ

2020.2.7. (土)

● 医療報酬改定会 ● 費者側評議会 ● ピックアップ ● 病院記者会見会

変更しているところ。2020年診療報酬改定会の内容を掲載となり、2月7日の午後は各病院主導の会議、午前では、医療報酬改定会等に関する講演が行われました。Gem Medでは、何回に分けて新規や既存医療・薬事等などを紹介しています。(2020年度診療報酬改定会基準の変更点は「こちら」(医療報酬改定会)と「こちら」(医療報酬改定会)とあります)。

本稿では、社内は大きな見直しが行われた「地域活性化連携会議」「地域活性化連携会議」に焦点を当ります。



【媒体概要】 ▶配信日:ニュースサイト・毎営業日 メールマガジン・週刊(営業日のある週初)
▶編集主幹:鳥海和輝

<https://gemmed.ghc-j.com/>

GHC Seminar



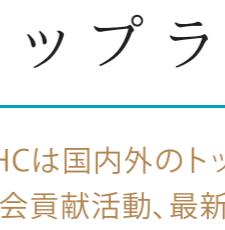
国内外のオピニオンリーダーによる講演や診療報酬改定の最新情報など、多様な切り口で病院経営に有用なセミナーを開催

<https://www.ghc-j.com/event/>

書籍案内



トップランナーと創造する医療の未来



GHCは国内外のトップランナーとの学術・研究活動や、社会貢献活動、最新の研究を反映させた新規事業構築などにも注力しています。

国 内

全国のがん診療連携拠点病院が集う「CQI 研究会 (Cancer Quality Initiative)」、回復期医療の研究会「回復期の医療と経営の質向上を考える会」のほか、自治体病院によるベンチマーク勉強会 (ToCoM^(*): 東海地区、DoCoM^(*): 北海道地区、せや CoM^(*): 大阪地区) など、国内医療機関の事業や研究活動をサポートします。

※文中の「CoM」は「コンソーシアム」を表します。



海 外

GHCの原点は、医療経済学のメッカ「スタンフォード大学」。GHCは設立当初から、米国の大学やメイヨークリニックなどの医療機関と医療政策の共同研究をはじめ、米国の病院経営を研究し新規コンサルティングサービスの開発にも役立てています。





日本初の病院ベンチマーク分析から始まり、医療制度の先を



1995
アキよしかわが米国グローバルヘルスコンサルティング(米国GHC)設立

GHCの事業と
関連が深い
医療制度

※GHCの取り組みと関連が深い医療制度は、
同色の豆電球のアイコンがついています。

2004 March

株式会社グローバルヘルスコンサルティング・ジャパン(GHC-J)設立



2004 May

日本初のベンチマークシステム「DAVE」リリース

2004 October

全国社会保険協会連合会との調査研究事業スタート

DPCベンチマーク分析システム
「EVE」リリース(MDV社との共同開発)
EVE

2006 August

DPCコスト分析システム「コストマトリックス」リリース(MDV社との共同開発)
Cost Matrix

2007 December

CQI研究会(Cancer Quality Initiative)第1回会合開催



2009 July

「看護必要度に関する研究」開始
(滋賀医科大学医学部付属病院看護部と共同研究)

2008 June

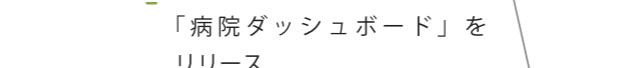
ToCoM(東海地区自治体コンソーシアム)第1回会合開催



米国スタンフォード大学と
共同研究
S

2012 May

次世代型経営支援サービス
「病院ダッシュボード」をリリース
HOSPITAL DASHBOARD



2010 January

DoCoM(北海道地区自治体病院コンソーシアム)第1回会合開催



せや CoM(大阪周辺自治体病院コンソーシアム)第1回会合開催

2014 December

米国メイヨークリニックと共同研究
MAYO CLINIC



2013 December

内科系学会社会保険連合の「内科系技術についての診療報酬評価に関する提案ver.1」に関わる分析協力

クイーンズメディカルセンター研修
THE QUEEN'S MEDICAL CENTER HONOLULU, HAWAII

2015 February

2016 March

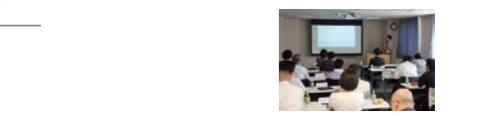


2016 June

「病院スコープβ版」をリリース
病院スコープβ版

2017 June

「回復期の医療と経営の質向上を考える会」第1回会合開催



2017 December

「病院ダッシュボードX」リリース
病院ダッシュボードX

患者にとって価値の高い医療を提供するために、医療現場は何をすべきか—創立当初からのこの追及が、国の先行く取り組みや診療報酬上の評価へとつながりました。



病院淘汰の時代、健全な競争が医療の質を高めます

病院のよきパートナーとして、誠実に、最大の価値を提供します



病院も選ばれる時代になっています。選ばるために必要な要素は、当然、質の高い医療を提供するということ。しかし、その病院が元気でなくては、患者と患者家族を元気にすることはできません。

No Margin, No Mission—利益なくして、果たせる使命なし。

GHCは病院経営者の良きパートナーとして日本の医療の未来に向けて目標を一つにし、「医療の質」と「経営の質」向上に資するビッグデータの解析を活かし、病院のため、ひいては、その先に存在する患者と地域住民のために、最大の価値を提供することをめざしております。

株式会社グローバルヘルスコンサルティング・ジャパン
代表取締役社長 渡辺幸子

慶應義塾大学経済学部卒、米国ミシガン大学で医療経営学、応用経済学の2つの修士号を取得。

帰国後、2003年より米国グローバルヘルスコンサルティングのパートナーに就任。

2004年3月グローバルヘルスコンサルティング・ジャパンを設立。

著書に『患者思いの病院が、なぜつぶれるのか?』(幻冬舎MC)、

『日本医療クライシス「2025年問題」へのカウントダウンが始まった』(幻冬舎MC)、

『医療崩壊の真実』(エムディエヌコーポレーション)。

Sadiko Watanabe

Mission

医療と経営の質向上に全知を傾け、医療の発展に寄与する

Vision

常に革新的なサービスを開発し、
国民と地域を守る「ビジョナリー・ホスピタル」の進化・発展(Leap)に貢献する

DPCの到来とともに日本の病院は、生き残りをかけた淘汰の時代に突入しています。そこでは、健全な切磋琢磨によって、効率化を進め、医療の質を高めた病院のみが、競争に勝ち残ることができます。

私は、こうした「競争」こそが医療の質を高めると考えています。また病院は、そうした努力と結果を消費者、つまり患者と患者の家族に対して、積極的に発信していくことが必要です。

私は、病院経営のコンサルティングを通して、誰もが日本全国どこでも質の高い医療を選べるような世の中を実現したいと考えています。

米国グローバルヘルスコンサルティング
会長 アキよしかわ

がんサバイバーの国際医療経済学者、データサイエンティスト。
10代で単身渡米し、医療経済学を学んだ後、カリフォルニア大学バークレー校とスタンフォード大学で教鞭を執り、
スタンフォード大学で医療政策部を設立する。米国議会技術評価局(U.S. Office of Technology Assessment)
などのアドバイザーを務め、欧米、アジア地域で数多くの病院の経営分析をした後、日本の医療界に「ベンチマーク
分析」を広めたことで知られる。近著に『日米がん格差「医療の質」と「コスト」の経済学』(講談社)、
『医療崩壊の真実』(エムディエヌコーポレーション)。





会社概要

会社名	株式会社グローバルヘルスコンサルティング・ジャパン
所在地	〒160-0022 東京都新宿区新宿六丁目27-30 新宿イーストサイドスクエア5F
代表者	渡辺幸子
TEL	03-6380-2401(代表)
FAX	03-6380-2402
URL	www.ghc-j.com
Mail	info@ghc-j.com